

3-1.調査の概要

(1)調査の概要

□ 目的

総合交通計画の策定にあたり、日常生活における交通の利用状況や公共交通への満足度・ニーズ、交通政策への意見等を把握し、今後の交通政策に反映するための基礎資料として活用する。

□ 対象

富山市に在住する満15歳以上の男女5,000人(無作為抽出)

□ 方法

- ① 郵送によるアンケート調査形式・郵送回答(直接記入)
- ② インターネット(Webフォーム)での回答

□ 期間

令和4年8月26日から9月19日

□ 回収数

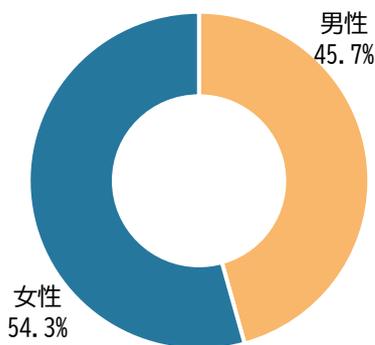
2,327人(郵送回答:1,881人、インターネット:446人)

□ 回収率

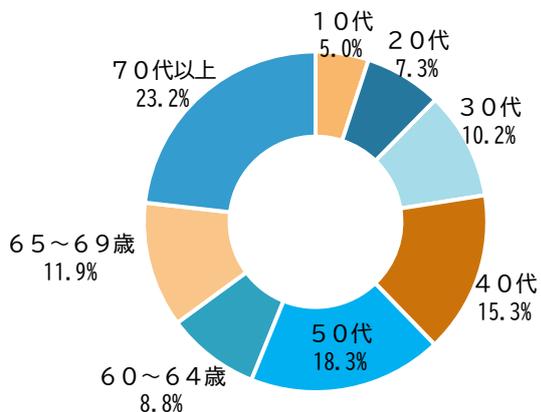
46.5%

回答者の属性

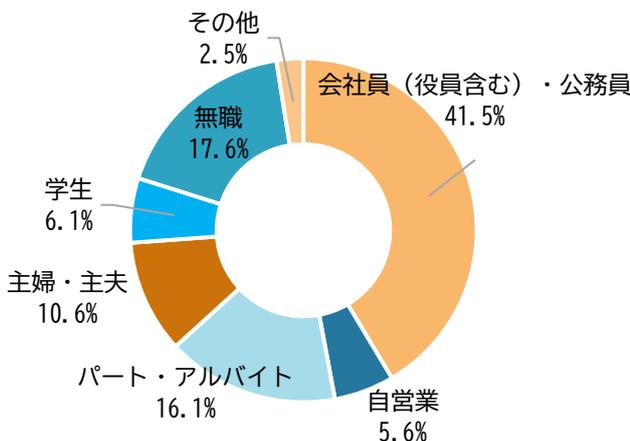
<性別>



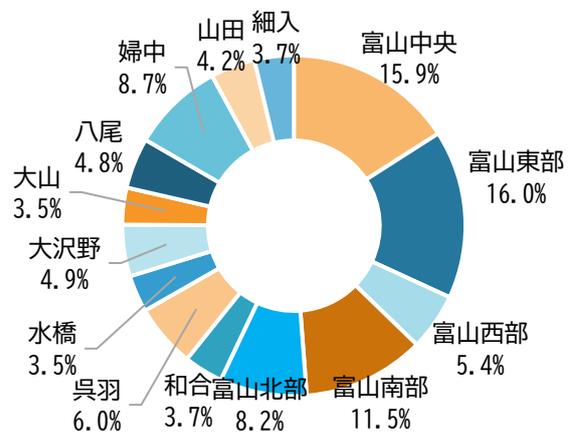
<年齢>



<職業>



<地区>



3-1.調査の概要

(2)回答者の概要

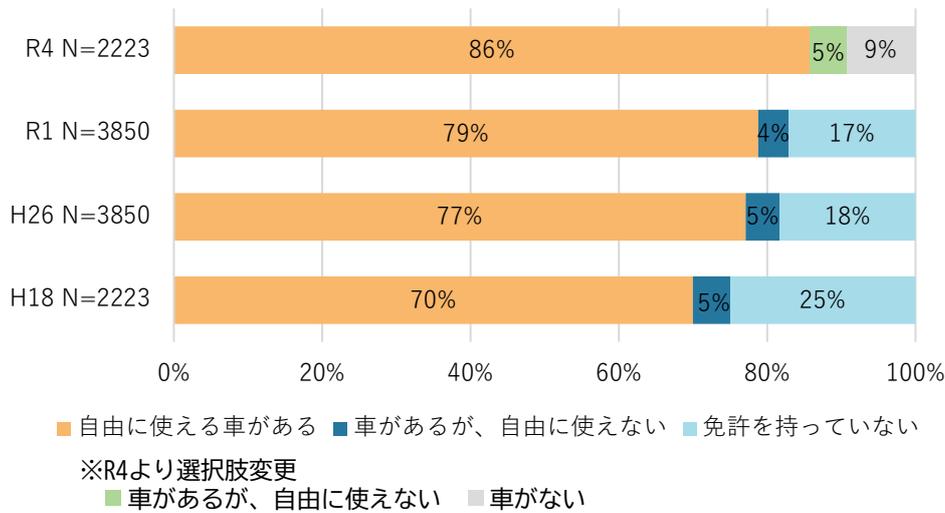
回答者は、50代以上が過半数を占めるとともに、富山中央・富山東部・富山南部地区居住者が多くなっています。(P40:年齢、地区参照)

自由に使える車がある人は、令和元年度調査より7ポイント増加しています。

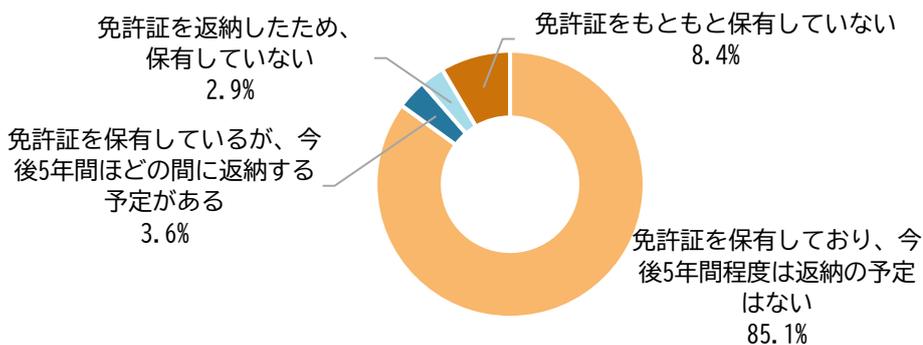
回答者の85.1%が、運転免許証を保有し返納の予定がない一方で、保有していない・返納の予定がある回答者が14.9%みられます。

携帯電話のうち、スマートフォンを利用している回答者の割合は、90.5%と、令和元年度調査より約27ポイント増加しています。

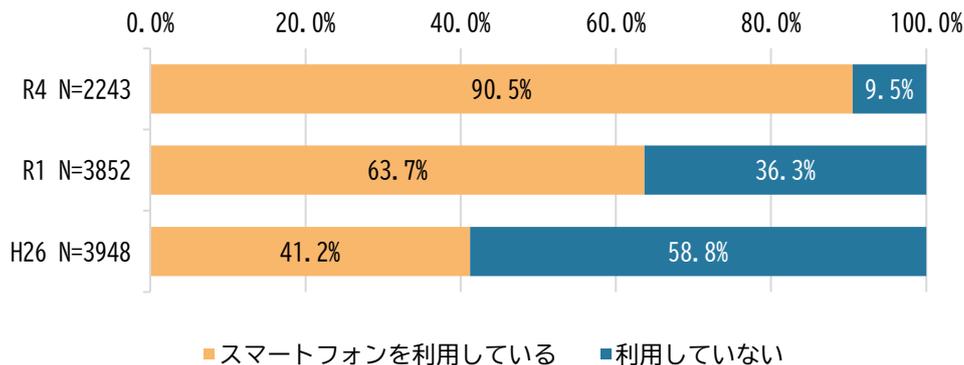
車の有無



運転免許証の有無



携帯電話の利用

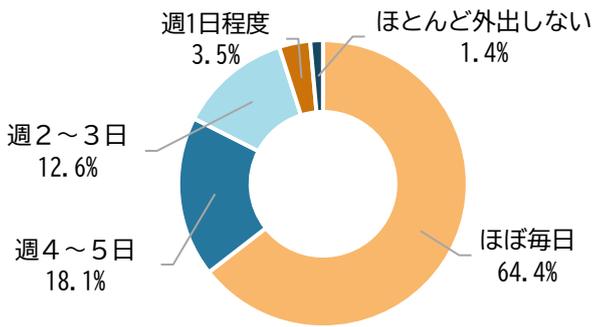


3-2.結果分析

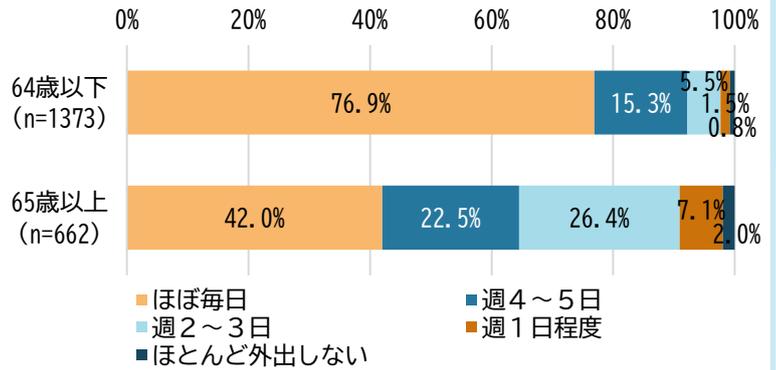
(1)移動状況

- ・週に2日以上外出する人の割合は全体で95.1%、高齢者では90.9%となっています。
- ・交通手段別の移動時間は、路線バスを除く移動では、20分以内が半数を占めています。
- ・平日の外出目的は通勤(58.4%)及び買い物(24.7%)の割合が高く、休日は買い物(66.4%)及び趣味・レジャー(18.9%)の割合が多くなっています。

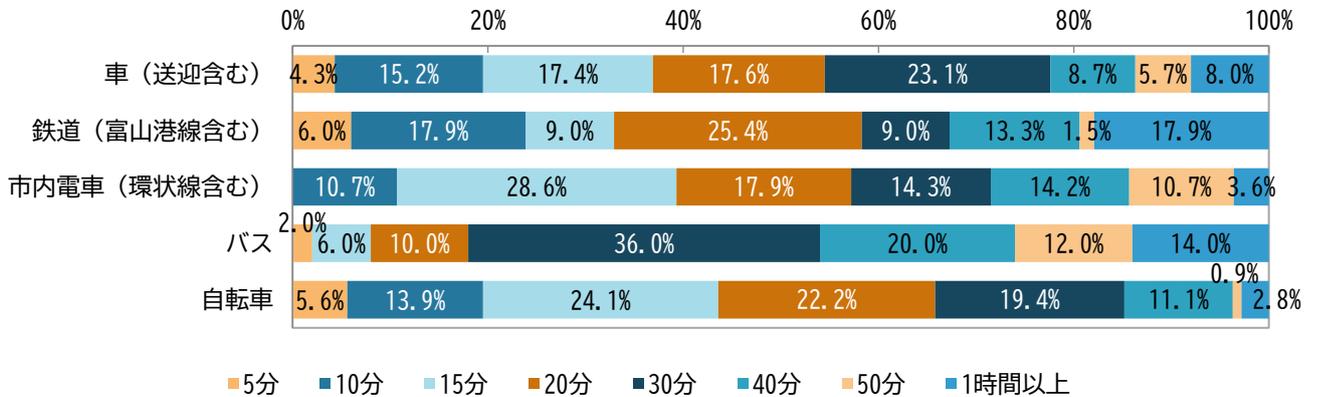
外出頻度(全体)



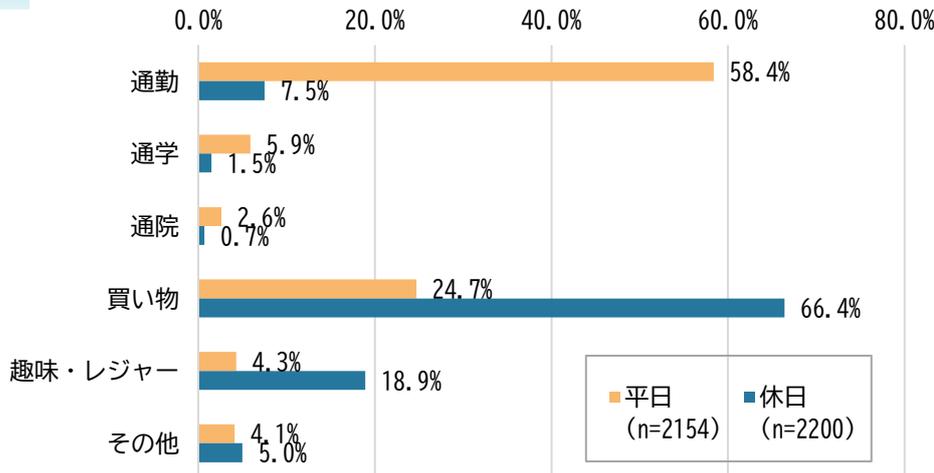
外出頻度(高齢者・64歳以下別)



交通手段別の外出時移動時間(平日全体)



外出目的

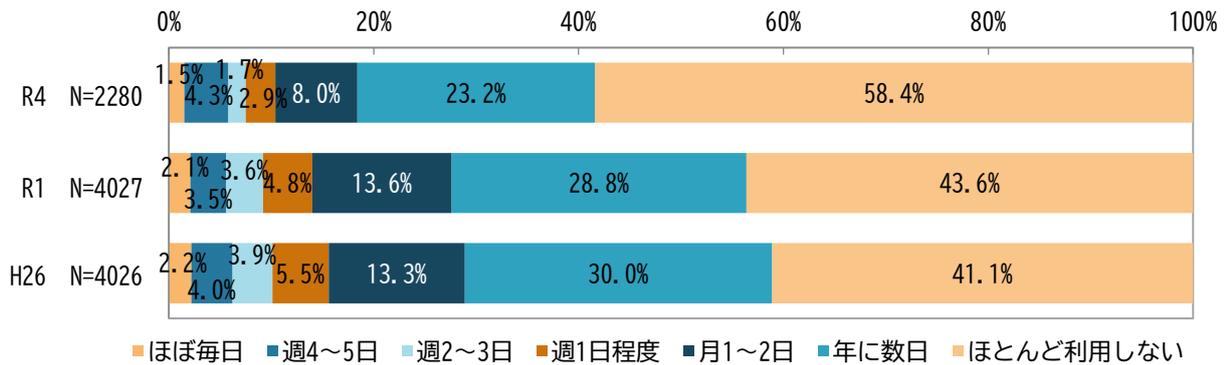


3-2.結果分析

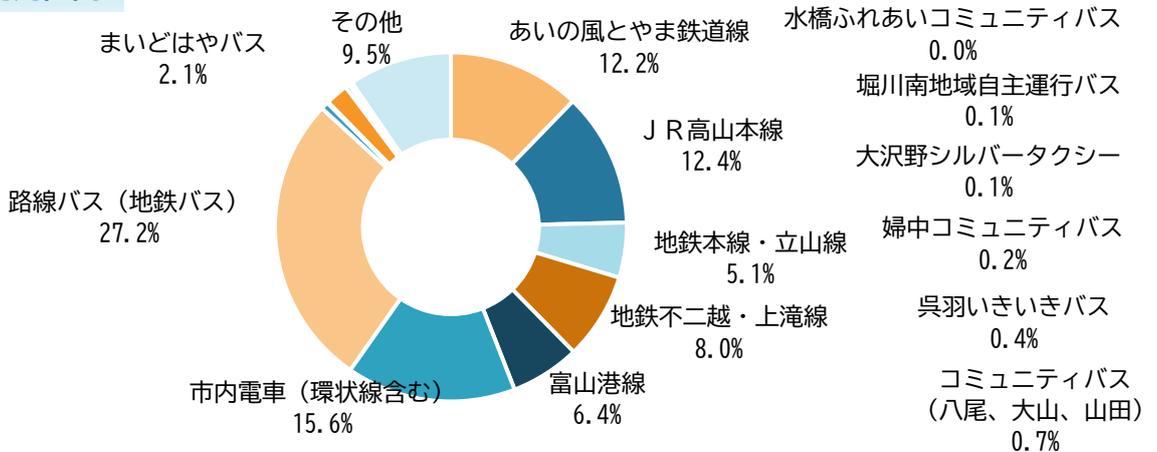
(2)公共交通の利用状況

- ・週1回以上公共交通を利用する人の割合は、令和4年度では全体の約1割となっており、平成26年度、令和元年度に比べて4～6ポイント減少しています。
- ・一方で、公共交通を「ほとんど利用しない」人の割合は、令和4年度で約6割に達しており、平成26年度、令和元年度に比べて10ポイント以上増加しています。
- ・最も多く利用されている公共交通は、路線バスで、次いで路面電車となっています。
- ・運賃支払い方法のうち、ICカードの利用割合は、令和元年度調査より6ポイント、平成26年度より10ポイント増加しています。

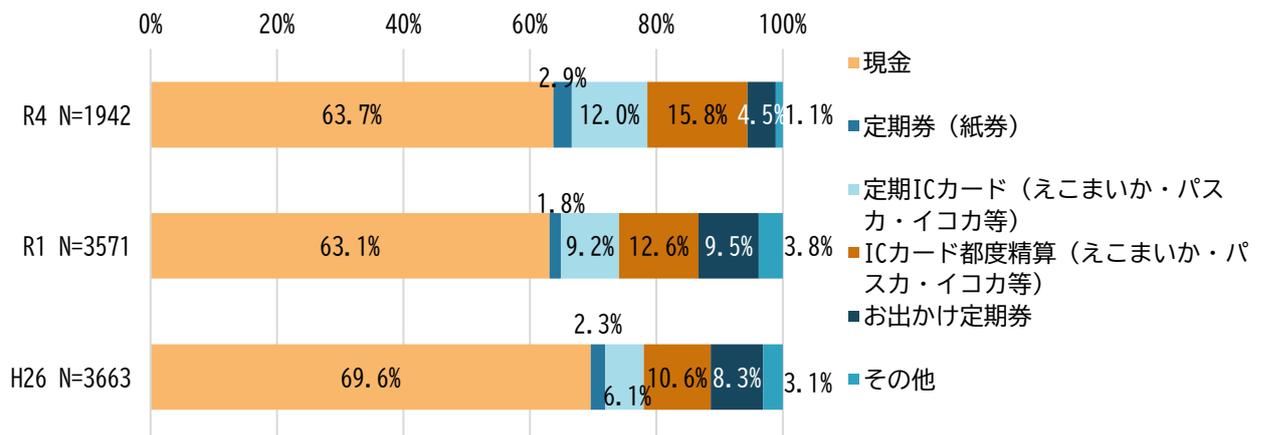
公共交通の利用頻度



公共交通の利用区間



運賃支払い方法



3-2.結果分析

はじめに

第1章

1. 市の概況

2. 交通の現状

3. 公共交通に関する市民意識調査

4. 各公共交通の課題

第2章

1. 基本方針と目標

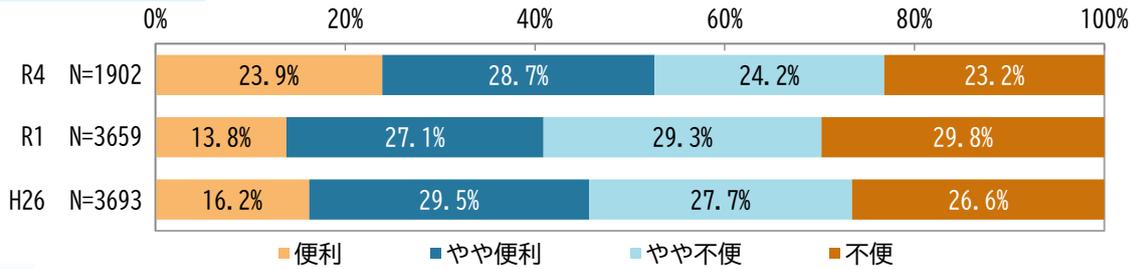
2. 目標を達成するための施策

3. 計画の達成状況の評価

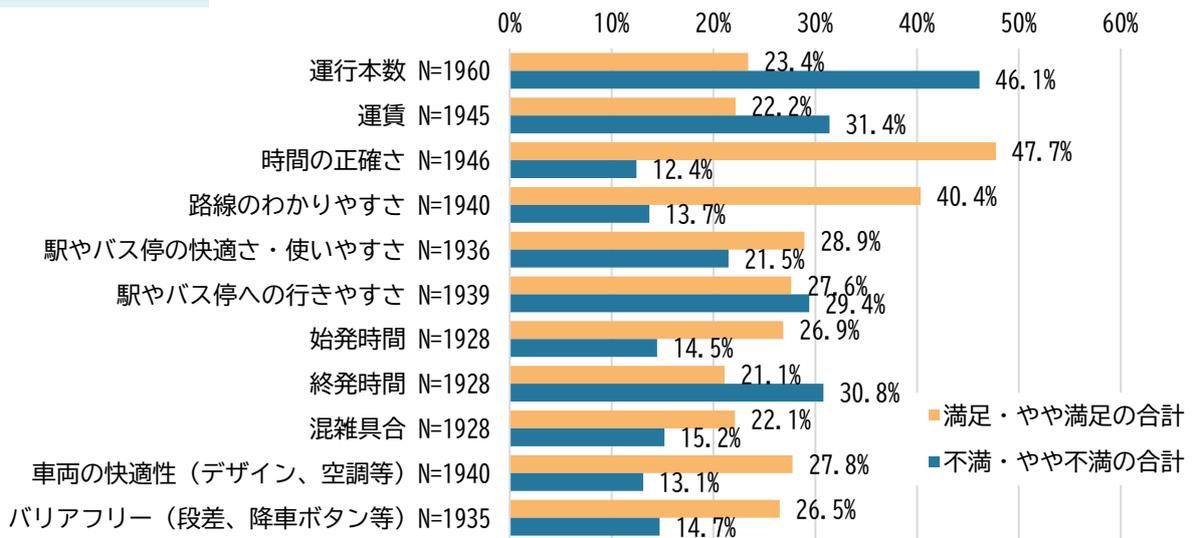
(3)公共交通のサービスレベルに対する満足度

- 公共交通を便利・やや便利と回答した人は令和4年度では52.6%と過半数に達し、前回(令和元年度)調査より12ポイント増加しています。
- 特に、時間の正確さや、路線の分かりやすさに対する満足度が高くなっています。
- やや不便・不便と回答した人は、運行本数、運賃、終発時間の評価が低くなっています。
- 路面電車への満足度が高い一方で、路線バスの満足度は全体的に低くなっています。
- 鉄道についても、定時性や路線の分かりやすさを除き、満足度は低い水準になっています。

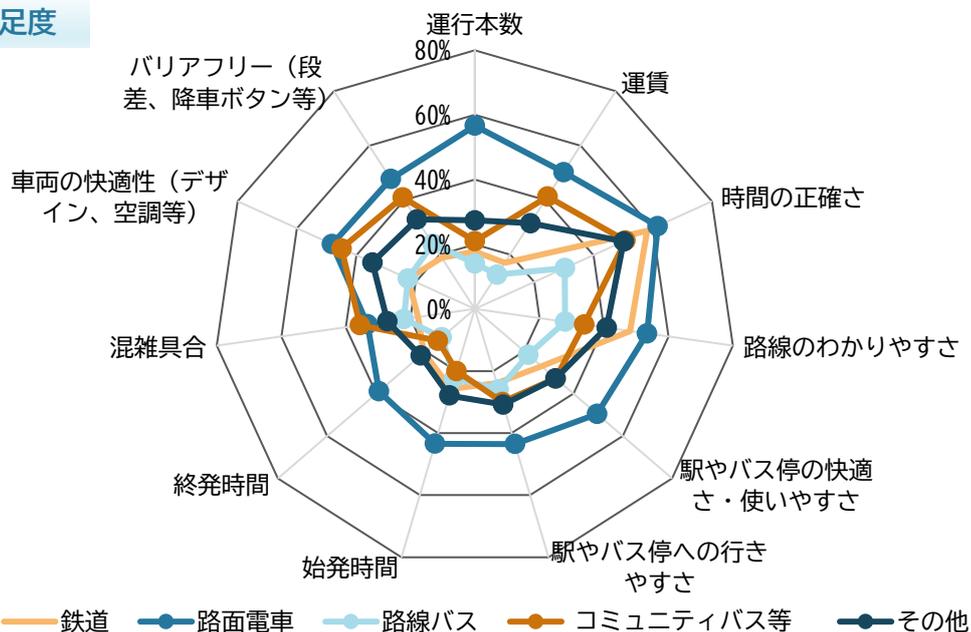
公共交通の利便性



項目ごとの満足度



公共交通別満足度

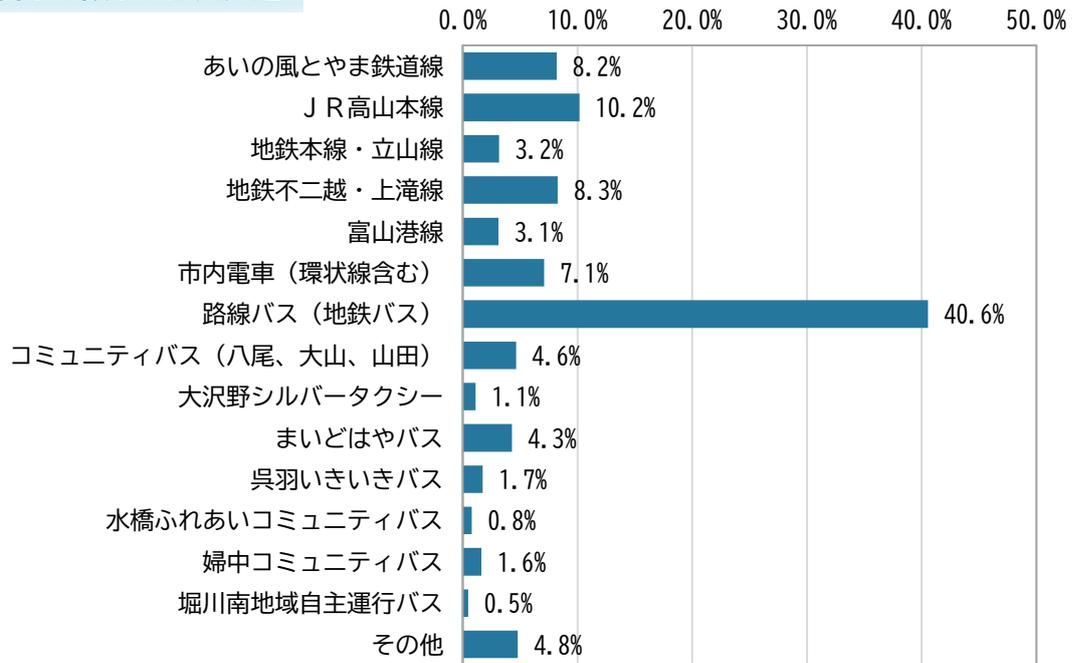


3-2.結果分析

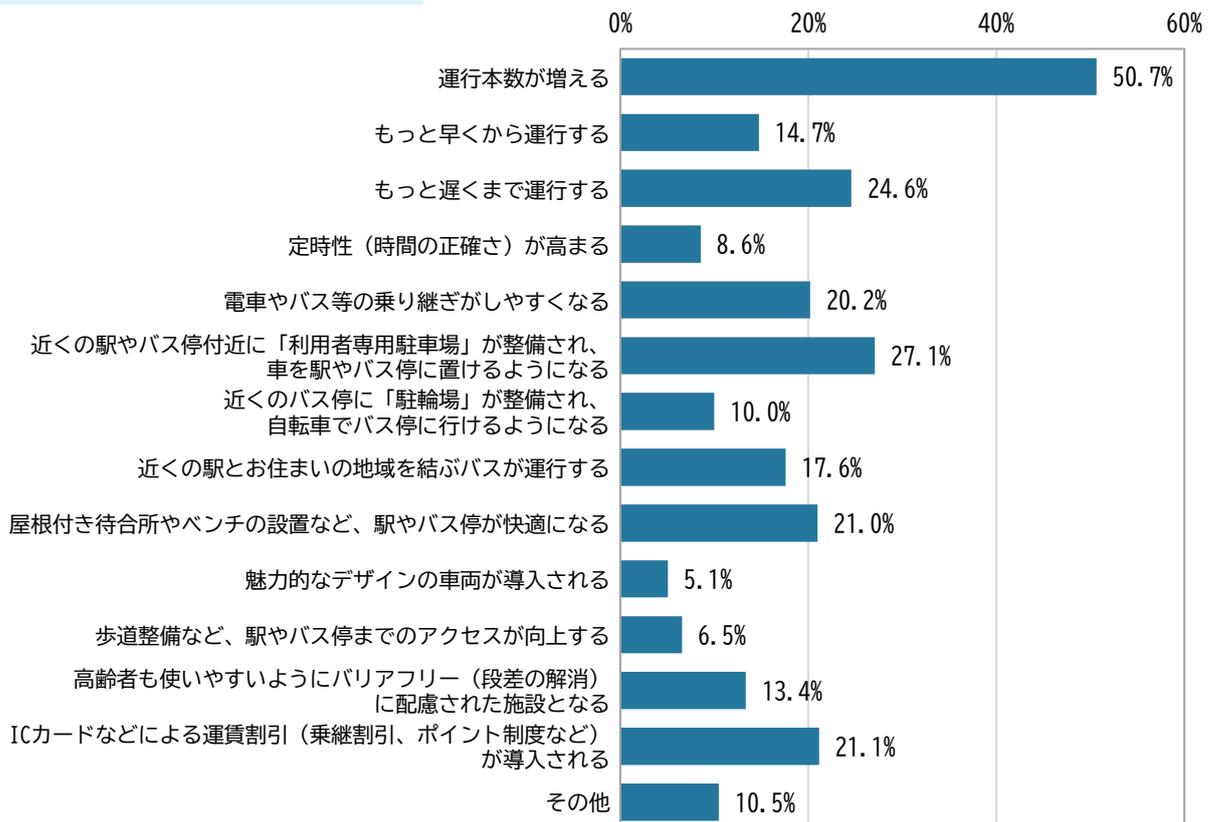
■公共交通への改善ニーズ

- ・最も改善して欲しい公共交通は、路線バスが突出しており、次いでJR高山本線となっています。
- ・コミュニティバスでは、八尾・大山・山田の市営コミュニティバスが最も高く、次いで、まいどはやバスとなっています。
- ・改善して欲しい内容は、運行本数の増加が最も多く、次いで、パーク&ライド駐車場の整備、終発時間となっています。

交通手段別最も改善して欲しい公共交通



内容別（項目別）公共交通の改善ニーズ



3-2.結果分析

はじめに

第1章

1. 市の概況

2. 交通の現状

3. 公共交通に関する
市民意識調査

4. 各公共交通の課題

第2章

1. 基本方針と目標

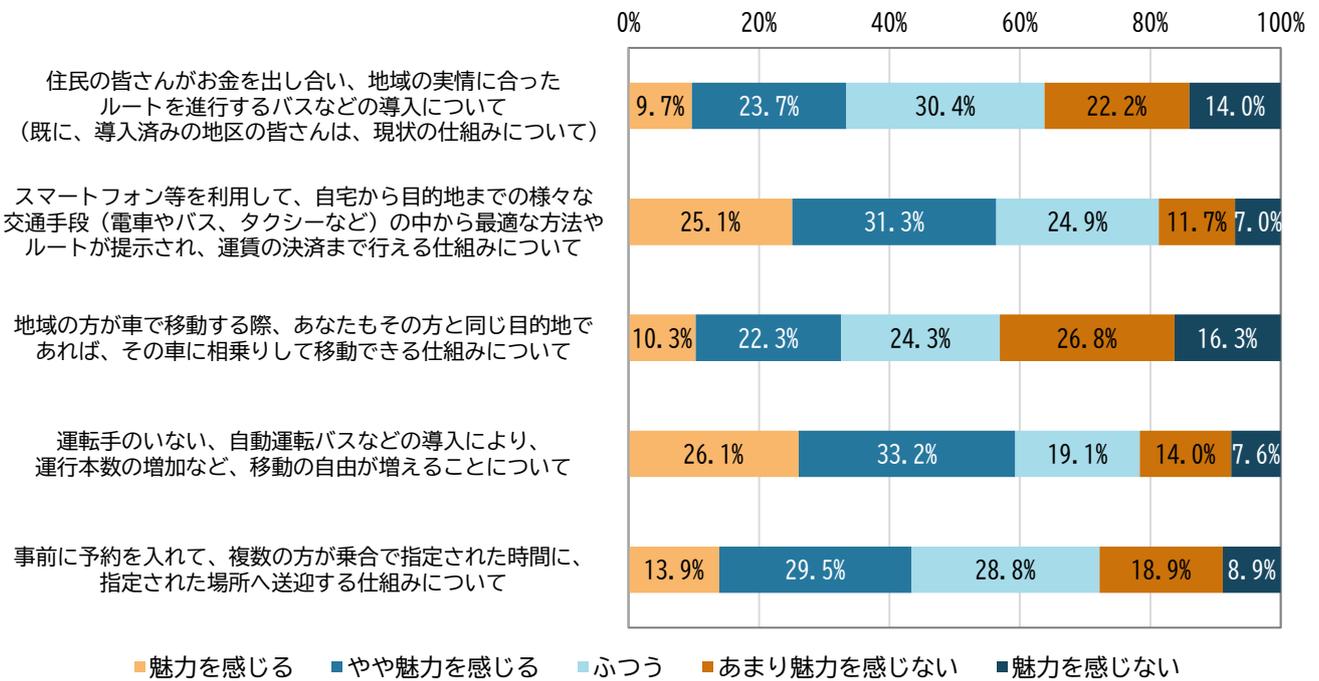
2. 目標を達成するため
の施策

3. 計画の達成状況の評価

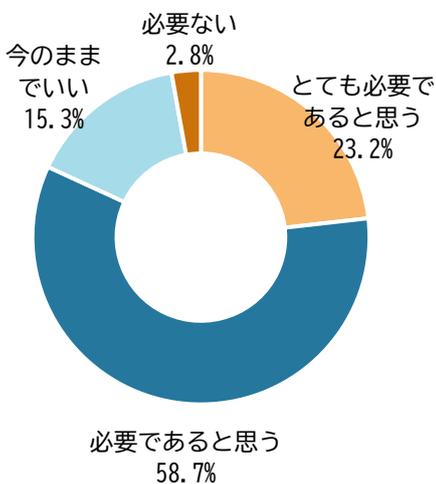
(4)公共交通や移動への意識

- 公共交通に関する新たな取組みについては、MaaSや自動運転の導入などに対する魅力度が高くなっています。
- 公共交通の利便性の向上について、とても必要である・必要であると回答した人の割合は、81.9%に達しており、利便性向上に対する要望が大きいものと考えられます。
- 公共交通への行政の関与については、積極的に支援すべき・ある程度の支援はやむを得ないと回答した人の割合は95.8%となっており、公共交通に対する行政の関与には、一定の理解を得られているものと考えられます。
- 将来(10年後)の移動について、不安があると回答した人は約3分の2に達しており、うち年代別では、高齢者の割合が8割、地域別では、中山間地域や沿岸地域の割合が高くなっています。

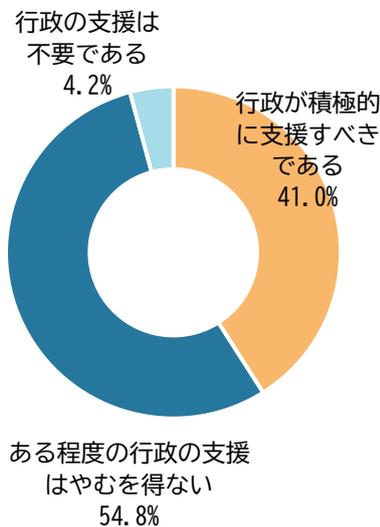
公共交通の新たな取組みに対する魅力度



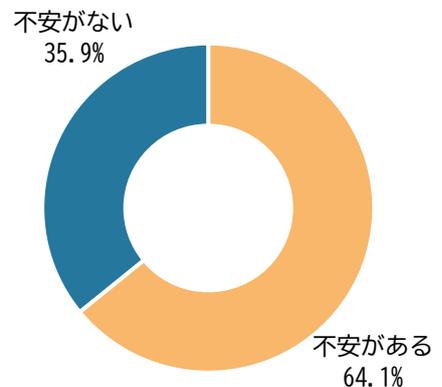
公共交通の利便性向上



公共交通への行政の関与

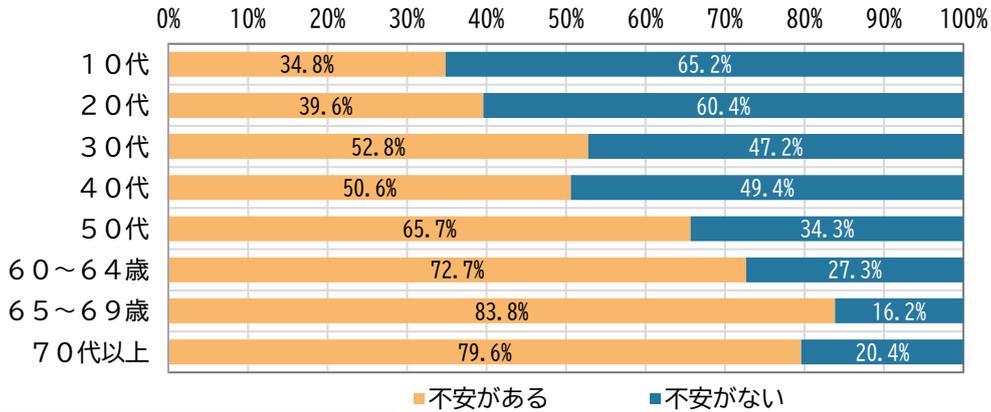


将来(10年後)の移動への不安(全体)

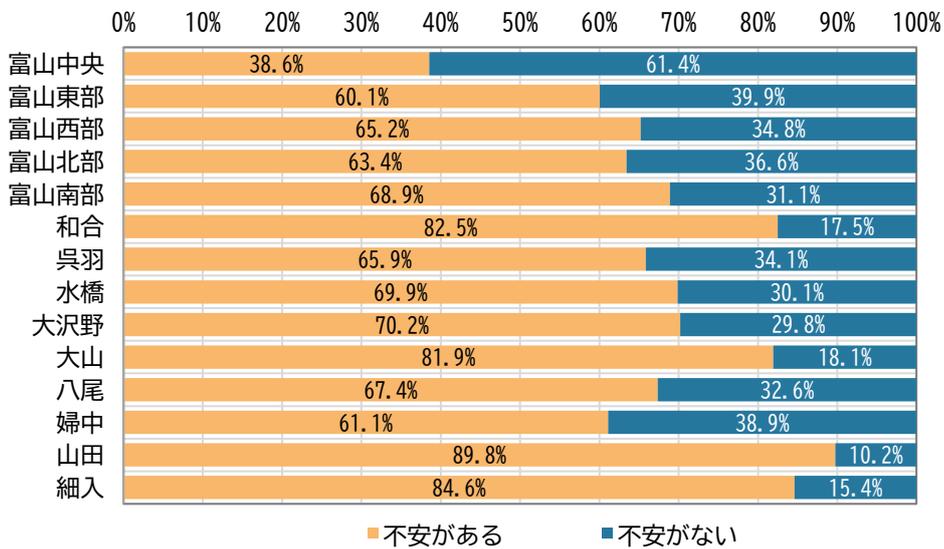


3-2.結果分析

将来(10年後)の移動への不安(年齢別)



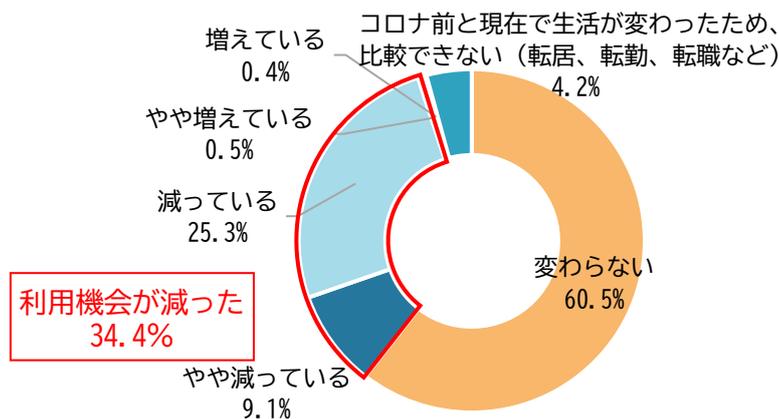
将来(10年後)の移動への不安(地域別)



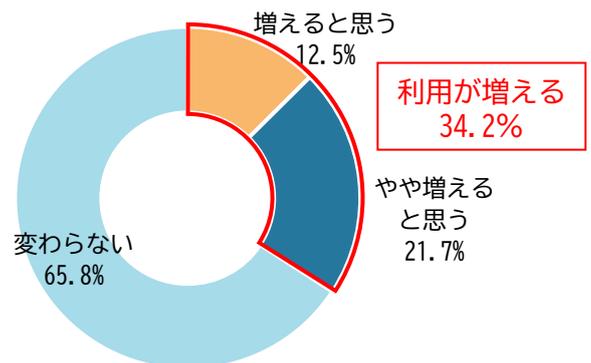
(5)新型コロナウイルス感染症拡大の影響

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、公共交通の利用機会が減った(やや減っている・減っている)と回答した人は、約3分の1に達しています。
- ・一方、感染が落ち着いた後に利用が増える(増えると思う・やや増えると思う)と回答した人も、約3分の1みられます。

コロナ禍影響による利用機会の変化



コロナ禍収束後の利用機会の変化

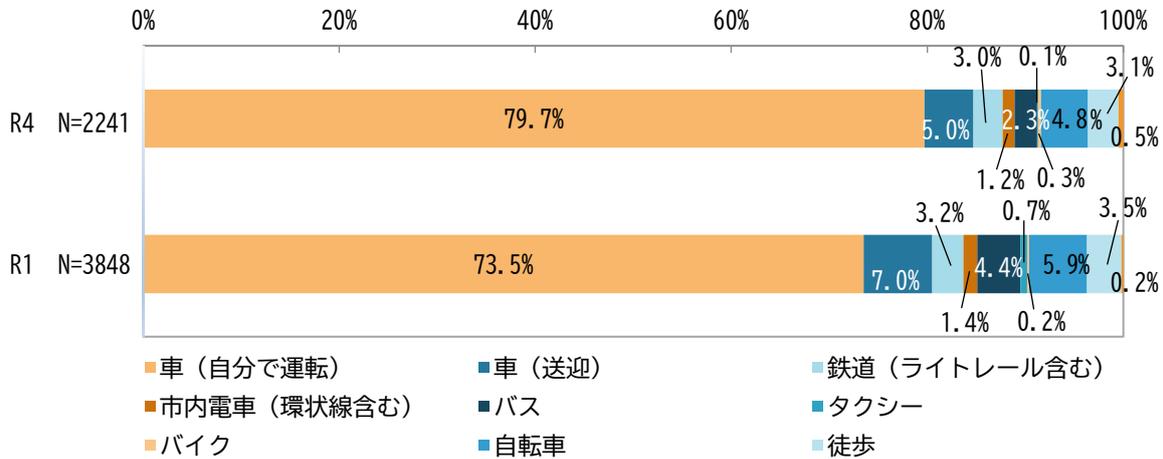


3-2.結果分析

(6)交通手段分担率

- ・ 前回調査(令和元年度)結果と比較すると、車の分担率(自分で運転・送迎)が4ポイント増加しています。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響が、要因の一つと考えられます。

交通分担率



(7)まとめ

- ① 外出時に週1回以上、公共交通を利用する人の割合は、全体の約1割に留まっている一方、公共交通を「ほとんど利用しない」人の割合が、大きく増加しています。
- ② 公共交通のサービスレベルに対し、路面電車への満足度が全体的に高い一方で、路線バスの満足度は、全体的に低くなっています。
- ③ 公共交通サービスの改善に対する要望について、交通手段別では、路線バスが突出して高く、次いでJR高山本線と地鉄不二越・上滝線が続いています。コミュニティバスでは、市営コミュニティバス(八尾・大山・山田)が最も高く、次いでまいどはやバスとなっています。
- ④ 公共交通利用者のニーズは、運行本数が増えること、パーク&ライド駐車場の整備、終発時間の繰り下げに対する要望が高くなっています。また、利便性向上やサービスの持続性に対する可能性として、MaaSや自動運転などの新たな取組みへの魅力が高くなっています。
- ⑤ 公共交通の利便性の向上が必要と回答した人の割合は、8割以上に達するとともに、これに対する行政の関与は必要と考えている回答者は、96%に達しています。
- ⑥ 将来(10年後)の移動について不安があると回答した人は、約3分の2に達しており、うち高齢者の割合が、8割を占めるとともに、地域別では、中山間地域や沿岸地域の割合が高くなっています。